

# 山形学院報

題字及び「愛」の字は故佐藤利吉前理事長によるものです。

2013年度主題聖句 『求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。  
門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。』  
【マタイによる福音書7章7節】

2013年度行動目標 「生徒とともに生き、学び、成長する」～生徒一人ひとりを大切に～

学校法人山形学院  
山形学院高等学校

〒990-0039  
山形市香澄町三丁目10番8号  
TEL023-641-4116  
FAX023-641-4121  
<http://www.y-gakuin.ac.jp/>  
E-mail info@y-gakuin.ac.jp

## 「今、3年間の物語を終えて」

理事長・校長 北垣俊一



本校では、入学前の課題として新入生に「わたしの物語(ストーリー)」というテーマで原稿用紙1枚に本校での3年間の学校生活について書いてもらっています。

今春、卒業を迎えるある女子生徒が書いた文章が今でも私の脳裏に残っています。

その内容を要約すれば、「わたしは、自分が希望していた大学に合格し、今卒業式を迎えようとしています」と書き始め、「学校生活に積極的に取り組んでいきます。学習についても良い結果を出すよう勉学に励みたい、そして生徒会に入って頑張ってみたいと思います。その他、いろいろな豊かな経験をして、思い出に残る学校生活を送ります。」と述べたものでした。

彼女は学習への誠実な取り組みの結果、自分が書いたようにどの科目にも良い評価を得ました。2年生になって生徒会役員に立候補し、生徒会の中心メンバーとしてしっかりその役割を果たしてくれました。その間、韓国の姉妹校京一高校の開校記念行事、アメリカ・ラスベガスのスプリングバレー高校での韓・日・中・米の4カ国学生会議にも参加する機会を持ちえたのでした。多分他の学校では経験できなかつたことでしょう。そして本校での学びやいろいろな体験を通して将来の職業につながる大学選択をし、合格切符を

手にしました。まさに入学前に書き記した物語(ストーリー)のように山形学院での高校生活を地道に、着実に、内なる忍耐を持って取り組み、多くの経験を重ねて自分の物語を完結させました。原稿用紙にすれば何十枚にもなるような物語の展開です。これは一人の生徒のストーリーですが、今春、卒業していく242名が入学前に描いた「わたしの物語」、その筋書き通りの学校生活を送りえたかどうかは分かりません。自分の描いた物語を追求しようという思いを持つつも、その途上で、残念ながら学校を去っていた人たちもいました。しかし今、3年間の高校生活を終え、卒業を迎えようとしている生徒たちは、それぞれに自分自身の物語を書き記すことができたのではないかでしょうか。そこには、青春の日々の学校生活が色鮮やかに書き記されていることでしょう。それぞれの生徒がたどった高校生活には自分との葛藤、挫折の気持ち、クラスの中での軋轢、級友たちと共に苦労しながら取り組んだ学校行事、同じ志を持った仲間と共に激しい練習に取り組んだ部活動、さまざまな場面での喜び、苦しみ、悩み、悲しみ、怒り、涙、感動が刻み込まれています。原稿用紙1枚の「わたしの物語」は、3年間の生活を綴るには多くの枚数を必要とするほどに内容のある分厚い物語となつたと思います。

「自立」という青年期の大重要な課題を負って山形学院に入学した生徒たちの物語は、これから長い人生の道程を支える大切な青春の記録となるに違いありません。

わが学窓を巣立ちゆく242名の前途に神さまの祝福を祈り、卒業式で齊唱する讃美歌の歌詞を贈ります。

### 《讃美歌556番『神の賜物を』》

1. 神の賜物を日ごとに磨き  
喜びわけあった学び舎を去る  
私たちは今、異なる道へ  
別れていっても思いは一つ  
み言葉の光  
たえず求めよう
2. 懐かしい母校の思い出胸に  
教えと愛とをたずさえていこう  
神のみ栄えをつねに現し  
親しい人々、家族たちにも  
まことと愛とを  
分かち広めよう
3. 学びの日ごとにかたく結んだ  
友とのきずなはいつも変わらず  
海山へだてて別れていても  
心と祈りはたがいに通う  
神と世のために  
力を尽くそう

# 佐利杯スペシャル

「佐利杯」とは?

前理事長佐藤利吉先生は1901年宮城県で生まれ、苦難の末、非常に有名な酪農家となられました。1970年8月より本校の前身である山形女子学院高等学校の理事長を務められ、2009年に亡くなられるまで本校のキリスト教教育に尽力してくださいました。本校が今あるのは佐藤先生のおかげであり、その功績を記念して佐藤先生のお名前を冠した文化的な校内大会を実施しております。

## 第3回佐藤利吉記念校内弁論大会

### \* 最優秀賞 \*

3年7組 白鳥響介

今回の弁論大会は料理コンテストとは違う難しさを味わいました。内容も中々自分の伝えたい事が上手く表現できず、なにより皆さんに伝わるように感情を込



基調弁論は  
数学科の伊藤先生

受賞式の様子



めて声に出す事が苦手でした。それを克服できたのは周りの支えがあったからです。夜遅くまで一緒に残ってくださった先生や一緒に戦ってくれたクラスメイト、ライバルの存在が私のモチベーションを上げ、なによりも大きな力になりました。そんな周りの支えとともに私も全力で取り組み、結果どちらも最優秀賞をいただく事ができ、本当に嬉しく思います。ありがとうございました。

## 第4回佐利杯料理コンテスト

### \* 優秀賞 \*

3年6組 後藤菜月

佐利杯に取り組むにあたり、私は調理をする時に完璧に作ることよりも、楽しく作ることを頭において取り組んできました。1年生で初めて選ばれた時は、まさか選ばれると思っていたので驚きが大きかったです。2年生の時も選ばれて頑張りました。しかし2年時の佐利杯は周りのみんなもレベルアップしていて試食してみたときにとてもおいしくて、負けたと思いました。最後の佐利杯は、なかなか見た目も中身もまとまらず苦労をしましたが、本番は楽しく自分らしい料理を完成させ、賞まで頂くことが出来たので良かったです。

### \* 優良賞 \*

3年6組 齊藤 怜

今回の佐利杯料理コンテスト、私にとってとても重要な大会でした。3年間、一緒に料理について学び語り合ってきた仲間。その仲間達とお互いの料理で競い合う最後の機会だったからです。みんなが優勝を狙っていました。練習が始まってからは葛藤の日々でした。制限時間の問題をクリアするために行程を省略したり、「本当にこれでいいのか?」と自分の作品に自信がもてなくなったりしました。最終的な結果は惜しくも3位というものでした。しかし、辛い葛藤を乗り越え自分の作品を完成させた経験は大きな財産になりました。今後の創作活動に活かしたいです。

## 技能五輪出場

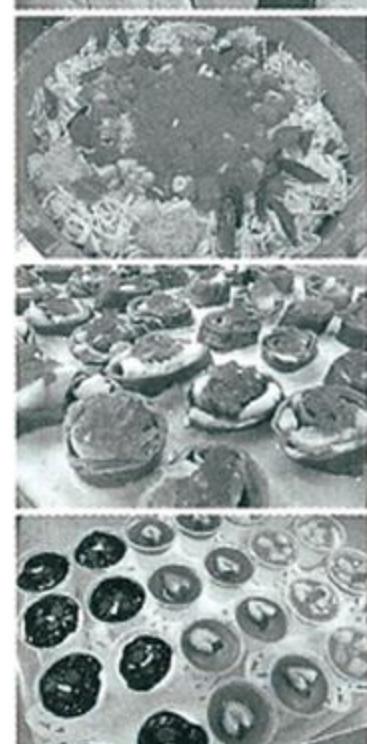


食物調理科 3年8組 高橋 剣

技能五輪全国大会とは、23才以下の青年が様々な技能レベル日本一を競う大会の事です。私は、日本料理部門に2年連続2回目の出場を果たすことができました。今年の大会は、去年の反省点であるスピードと正確さを中心に日々の練習をおこなってきました。練習の甲斐あり、作品の仕上がりも去年以上でした。入賞は逃してしまいましたが、日本料理の技術を向上させる事ができたと思います。内定をいただいた日本料理の就職先でも、このことをいかしていきたいと思います。



## 感謝の会



### 調理科感謝の会を終えて

3年6組 宮林 菜月

前日の準備のときは作るのが分からなかったり行動が遅くなったりとクラスの人に迷惑をかけて大変だったけれど、みんな手伝ってくれて感謝の気持ちでいっぱいでした。

当日はなんとか三品作ることが出来てよかったです。また友達の保護者の方々が調理室に来てくれて、とても楽しく料理が出来ました。特に私が担当したココナッツプリンでは、下に入れたタピオカがかたくなっていましたが、みなさん食べててくれたので嬉しかったです。

いつもは感謝を言いづらい親にこのような会を通して自分から感謝が言えて良かったなと思います。この感謝の会で、調理科の中での集団としての团结力や協力性が高まったと思います。これから自立する部分が多くなると思いますが、まだまだ親に迷惑をかけて生活していくと思うので、感謝を伝えながら生活していきたいと思います。

2013年12月13日(金)

## 第3回 佐藤利吉記念校内弁論大会結果

- ◆最優秀賞 題目「一步踏み出す」  
3年7組 白鳥 韶介
  - ◆優秀賞 題目「偽装主義国 日本」  
3年1組 高橋 春博
  - ◆優良賞 題目「本当の不幸とは」  
2年6組 高橋 瑞歩
  - ◆佳作 題目「命を買う」  
2年4組 秋野 詩織
  - ◆佳作 題目  
「今までの自分とこれからの自分」  
2年8組 佐藤 敦己
- おめでとうございます

2013年9月6日(金)

## 第4回 佐利杯料理コンテスト結果

1年生の部 こどものための愛情弁当		
最優秀賞	瀬野楓菜	7組 もぐもぐ弁当
優秀賞	遠藤奈々帆	7組 オムライス弁当
優良賞	伊藤彩香	9組 わくわくanimal
2年生の部 食肉惣菜創作料理		
最優秀賞	松田友香	9組 ぐるぐる肉巻き
優秀賞	和田 順	8組 牛レバーのバテ串焼き風
優良賞	莊司真帆	7組 茄子のカツサンド~田楽味噌がけ~
3年生の部 シーフード料理		
最優秀賞	白鳥響介	7組 鰯のコンフィー アクアパッソソース
優秀賞	後藤菜月	6組 タラの親子の涼亭皿
優良賞	斎藤 怜	6組 カレイのムース詰め 2色のソース



食物調理科の行事の一つに、毎年12月にご家族をご招待する「感謝の会」があります。生徒たちは3年間の集大成とするべく、準備に取り組んできました。感謝の会を終えた生徒の感想文を紹介します。



## あなたの土台は？



調理科教諭  
久間木亮太

私の心に響いた聖句は、ルカによる福音書6章46～49節です。「家と土台」について書かれています。地面を深く掘り下げる、岩の上に土台を築いて家を建てた人は、洪水になっても流されずにすみ、土台なしに家を建てた人は流されてしまった、というお話を。

私が初めてこの聖句にふれたとき、「あなたの土台は何だ？」と問われたようで、ドキッとした。土台、土台…、それは自分の経験や能力のことかと最初は思いました。多くの経験や能力のある人は、何かあったときに乗り越えることができるが、それがない人は乗り越えることができない。だから経験や能力をみがきなさい。…

しかし最近は、その土台の正体は「愛」なのではないかと思うようになりました。「隣人を自分のように愛しなさい」(マルコによる福音書12章31節)…この土台がしっかりしていれば、決して崩れることはない、と。もちろん簡単にできあがる土台ではないでしょう。せっかくキリスト教の学校に勤めているのだから、信者でない私であっても、キリスト教に見合ったしっかりした土台を築いてゆきたいと思っています。

# 2013年度部活動入賞記録

(主なもの)

## ■体育部

### 男子バスケットボール部

- ・山形県高等学校総合体育大会 ベスト16
- ・県高校選抜優勝大会 ベスト8

### 女子バスケットボール部

- ・山形県高等学校総合体育大会 ベスト16
- ・県高校選抜優勝大会 ベスト8

### 男子バレー部

- ・第19回全国私立高等学校男女バレー部選手権大会出場

### 女子バレー部

- ・第19回全国私立高等学校男女バレー部選手権大会 東北予選会出場

### ソフトボール部

- ・東北私立高等学校女子ソフトボール大会出場

## △男子バレー部より

### 強化指定部のキャプテンとして

総合普通科 遠藤 拓

私たちは舟越先生・我妻幸先生のご指導のもと、一番の課題であったブロックを中心に日々の練習に取り組んできました。学校からは強化指定部にさせていただき、先生方や保護者の方々の支えもあり東北大会を突破し全国大会への切符を手にする事ができました。

自分たちの理想のバレーを作るために、練習はもちろん普段の生活でもバレー部であることの自覚を持ち心技体ともに鍛えていきたいと思います。全国大会では、一つでも多く勝ちあがれるよう頑張ります。

### 男子テニス部

- ・東北私立高等学校テニス大会出場

### ボウリング部

- ・第20回全国高等学校対抗ボウリング選手権大会出場

青柳瑠佑 井澤 大

- ・第37回全日本高校ボウリング選手権大会出場

青柳瑠佑

### ボクシング部

- ・東北高校ボクシング選手権大会 ライトウェルター級Ⅱ部

安齋一輝 3位



## △女子ソフトボール部より

### 部活にかけるおもい

総合普通科 矢口 夏実

昨年は新人戦をはじめ数々の悔しい思いを私達は経験しました。その悔しい思いをバネにして今、日々の練習に取り組んでいます。しかし、まだ私達にはたくさん課題が残されています。残り少ない時間を大切にして、一日一日全力で頑張りたいです。私達の目指す場所はインターハイただ一つです。練習の意味を考え、貪欲に、そして支えてくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに普段の学校生活、練習に取り組んでいきます。

## ■文化部・学校部

### 華道部

- ・Ikenobo花の甲子園2013 東北地区大会

「アミューズメント賞」

### 放送部

- ・第17回東北高等学校放送コンテスト宮城大会出場

朗読部門 佐藤敦己

### 美術部

- ・山形県高校文化祭美術展 努力賞 池野智恵美

### YMCA

- ・第17回ボランティアスピリット賞 「北海道・東北ブロック コミュニティ賞」

### ハンドベル部

- ・第31回東北フェスティバル出場
- ・第38回全国フェスティバル出場

## △美術部より

### 県高文祭で入賞して

総合普通科 池野智恵美

高文祭では、深海をテーマにした「美しいものに騙されるな」という題の油絵を出品しました。F10の小さなキャンバスに時間をかけて制作したせいもあり、締め切り間近までかかってしまいました。その結果努力賞を頂いたときはとても嬉しかったです。今年はこの成績に満足せずに、残り少ない部活動を悔いの残らないよう過ごしたいです。そのため限られた時間を使い、上位入賞を目指して精進していきます。



# 修学旅行

※各コース、チーフの先生から



## 沖縄コース

人数208名

いちゃりばちょーでえ

教員 舟越和外

那覇空港に降り立つと、そこは気温28度の南国であった。生徒は皆声をそろえて暑い暑いと半袖になり、バスの中はクーラーが効いている。これぞ沖縄という気候を感じながら、沖縄修学旅行は始まった。残念ながら初日ほどの天気には二日目以降は恵まれなかつたが、平和学習や伊江島民泊、目的別自主研修を通して生徒はしまぬくくる、沖縄の心を肌で感じていた。普段の生活では体験できない経験を通して、日を追うごとに成長していった生徒たち。この経験を今後の生活におおいに活かしてもらいたい。



## 韓国コース

人数72名

文化や国が違っても

教員 今野 潔

濃密な6日間でした。政治レベルでは対立が深刻化していく少々心配でしたが、日程をこなしていくうちに不安はとけていきました。生徒たちも前向きに行動してくれました。堤岩教会での平和セレモニー、姉妹校の京一高校での交流会など、今しかできない体験を積み重ねる姿を、頼もしい思いで見ていました。

若いうちに異国を訪ねるのは貴重です。人間は、相違点より共通点の方がはるかに多いのです。円安の時期は経済的に大変ですが、後輩のみなさん、是非修学旅行は外国へ。



## シドニーコース

人数31名

A journey of a lifetime

教員 千葉啓太

修学旅行のコースでは最も長い期間、そして最も日本から離れる異国への旅、シドニーコース。一大決心をして臨んだ旅を通して、世界を知り、参加者一人ひとりが確実に大きくなつたことを感じました。自分の目で見た広い世界、自分の心と体で体験した異文化・外国語、人々との出会い、オーストラリアでの全ての経験は、きっと生涯消えることのない財産となり、これから歩む人生にも大きな影響を与えてくれることと思います。



## 「山形学院21世紀教育振興募金」のお願い

学院の  
教育充実のために  
募金にご協力を。

この募金は、生徒の奨学資金、公開講座、その他の教育活動を支えていくために設けております。

この振興募金から2つの奨学金制度を継続しています。また、公開講座として、料理教室、ハングル学習会を開くことができています。

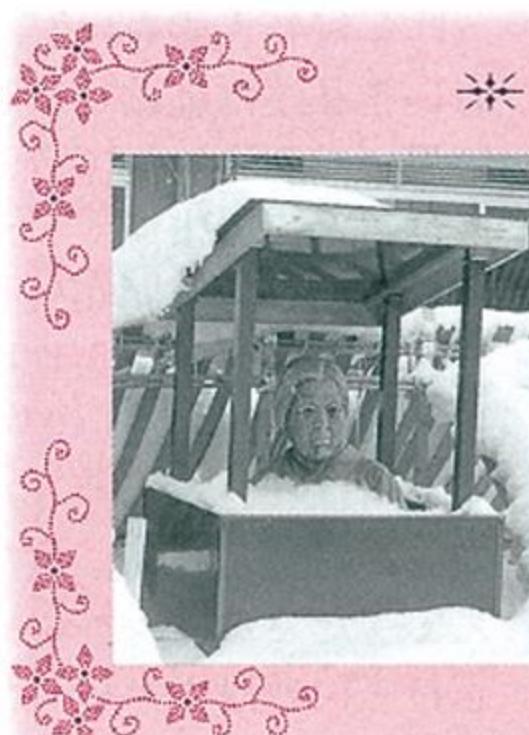
「21世紀教育振興募金」の充実は、本校の教育活動を一層拡充するものとなります。是非今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

### I 山形学院学業奨励奨学金制度

対象・2年在籍の生徒で、学校生活、学業に努力し、人物に優れた者。  
各学科1名。

### II 山形学院貸与奨学金制度

対象・本学院に在籍する生徒で、各家庭の事情により経済的な協力を必要とする者。  
内容・貸与額に段階あり、無利子で貸与。  
卒業後に返済の義務を負う。



### ※学院点描※

写真は、北プロムナードにある本校の創始者、森谷たま先生の胸像です。

新校舎へ移転した2005年の冬は大雪でした。雪に埋もれてしまった森谷先生をかわいそうに思った当時の野球部監督が屋根を手作りし、それ以来毎年、森谷先生を雪から守っています。

その後2008年度卒業生記念品として植栽がほどこされ、今年も大雪にうずもれることなく、森谷先生は毎日生徒の登下校を見守ってくれています。